

那須烏山

— No.107 —

2014
August

8

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

山あげ祭	2
デマンド交通烏山地区で10月から試験運行	8
那須烏山市・那珂川町で初の合同水防訓練	10
まちの話題	14
インフォメーション	16

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



450年の伝統と心意気(7月27日、山あげ祭「特別公演」)

祭



来場者数8万人 今年も熱い夏がやってきた



右上：お囃子に興味津々な子どもたち／左上：
真剣な様子の若衆／下：駅前でのブンヌキ。

7月24日(木)の笠揃かさそろ(宵祭)に始まった「山あげ祭」(「山あげ行事」として国の重要無形民俗文化財に指定)が、7月25日(金)から27日(日)までの3日間、烏山地区の市街地で開かれました。「山あげ行事」がユネスコ無形文化遺産登録申請中ということもあり、祭を一目見ようと県内外から訪れた約8万人の観光客でにぎわいました。

今年の当番町は日野町。若衆を中心に市をあげて盛大に祭典が繰り広げられました。

日野町

当番町 日野町

450年余の伝統 絢爛豪華な野外歌舞伎

山あげ祭は、今から450年ほど前の永禄3年(1560年)、烏山地方に疫病が流行し、この災厄を避けるため、時の烏山城主那須資胤が、大桶村から牛頭天王を烏山(酒主村)の中心部に勧請したのが発祥とされています。

当時は、相撲や神楽獅子舞を奉納していましたが、次第に大規模になり、延宝元年(1673年)には屋台ができ、後にはりか山を背景に狂言を行うようになりました。さらに、江戸末期から明治にかけては、常磐津所作の「山あげ」が行われるようになり、現在のような全国でも珍しい絢爛豪華な野外歌舞伎となりました。

今年も、天候にも恵まれ、猛暑の中の開催。若衆たちの祭にかける想いも重



左上から、今年的主芸題「将門」/24日に行われた笠揃/さっそうと歩く世話人たち/三番叟(笠揃より)/八雲神社から御仮殿にみこしを奉還する「出御」。

なり、市内は暑い熱い3日間となりました。

舞台では、山あげ保存会芸能部会の常磐津部の伴奏で踊り部の皆さんが、今年の主芸題「将門」を中心に「三番叟」や「蛇姫様」、「吉野山狐忠信」など17公演を披露し、観客も祭を楽しみました。

宵祭の笠揃

祭前日の24日(木)には、日野町で宵祭といわれる「笠揃」の行事が行われました。まず、会所開きでは二藤部孝自治会長が、「多くの人々の支援でこの日を迎えられることを感謝したい。楽しく立派な山あげ祭にしたいのでよろしくお願います」とあいさつしました。

そして、金棒曳きと呼ばれる5人の子どもたちを先頭に、世話人や若衆たちが、屋台を引いて日野町内を練り歩

きました。沿道には、お囃子の音を聞きつけた多くの地域住民が集まり、手を振って若衆たちを激励しました。

その後、木頭の指揮で若衆たちは素早い動きで山を次々とあげ、午後7時の公演には、ライトアップで幻想的に照らされた山の前で「三番叟」と「将門」が演じられました。

祭本番

出御に始まり順調に

いよいよ山あげ祭の本番となる、25日(金)午前6時には、八雲神社から日野町内を一周し、仲町十文字の御仮殿にみこしを奉還する「出御」が行われ、当番の日野町若衆が威勢よくみこしを担ぎました。

また、祭初日に御仮殿前で山をあげ、奉納することを「天王建」といい、祭の



中で最も重要な儀式とも言われています。多くの報道カメラマンや観客が集まる中、無事に奉納を終え、続いては、各町に「訪問」を行います。

この「訪問」とは、山あげ祭当番町以外の町で山をあげることをいい、すべての町を訪問することができたりとなつていきます。この際、訪問を受ける町の世話人は、町の入り口で出迎えます。当番町は、世話人を先頭に、金棒曳き、屋台、若衆たちが列となり町境まで進み、筆頭世話人の口上のあと、はじめて他町に踏み入ることが出来ます。

当日は、泉町、元田町、金井町の順に訪問し、「将門」を公演しました。舞台裏では、若衆が山をあげたり、舞台と館の間の「橋」を人力で支えたりと、華やかな舞台の裏方として一糸乱れぬ団体行動をみせていました。また、公演場所への移動には、人力で動かす「地車」を使います。大きな舞台や道具を運ぶ、その迫力に観客も目が釘付となりました。

炎天下の2日目 特別公演に人々

中日の26日(土)。午前6時から、再来年

①世話人同士があいさつ(泉町訪問より)／②木頭の合図で大山があげられる／③駅前も多くの観光客でにぎわう(金井町訪問より)／④踊り手との写真撮影会／⑤露払いされる子どもたち(金井町「渡御」より)／⑥大山が上がる様子を見上げる／⑦お祭気分！／⑧地車を引く若衆／⑨お囃子方が競い合う「ブンヌキ」。

の当番「金井町」若衆によって御飯殿からみこしが担ぎ出され、各町を巡回する「渡御」が行われました。赤面の天狗と青面のからす天狗が露払いしながら練り歩き、お昼には再びみこしが御飯殿に納められました。

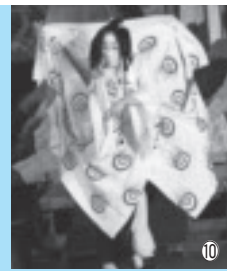
一方、日野町若衆は、鍛冶町への訪問に続き、特別公演や日野町内での4公演を披露しました。山あげ会館前で行われた「蛇姫様」の特別公演では、炎天下にもかかわらず、会場が埋めつくすほど大勢の観客が訪れ、踊り手の華麗な舞いに歓声があがりました。同会館内では、特別公演に合わせ、「踊り手との写真撮影会」が催され、記念にと多くの観光客が訪れました。

また、JR烏山駅前では、午後5時11分に到着する電車から降りる観光客を迎えようと、元田町、金井町、泉町、鍛冶町によるブンヌキが行われました。

暑い熱い3日間に 幕引かれる

最終日の27日(日)、午前9時からの公演で1日がスタート。公演を終えた後は、関係者が一同に会し、山を背景に記念撮影も行われ、カメラを持った人々が押し寄せました。そのほか、正午からの山あげ会館前では特別公演として「将門」が披露され、見事な舞にわれんばかりの盛大な拍手が巻き起こりました。

しかし、公演が終ると突如、強風が吹



⑩狐になりきり(吉野山狐忠信)／⑪子どもみこしが出発／⑫露店も日が暮れるとにぎやかに／⑬影で支える若衆たち／⑭常磐津の皆さん／⑮特別公演では会場が埋めつくされるほどの観客／⑯見つめ合う／⑰ビニールシートを雨よけに移動／⑱雷雨で山があがらず烏章館で公演(吉野山狐忠信)／⑲観客の笑いを誘った宮原八幡宮太々神楽／⑳にっこり笑顔／㉑楽しいひと時を過ごす／㉒おじいちゃんと／㉓日野町若衆と祭関係者が集し、記念撮影。

そんな中、八雲神社前では「ブンヌキ」が行われました。ブンヌキは、各町のお囃子の競い合いです。若衆たちが自町の囃子方を応援します。鳴り響くお囃子と歓声、若衆たちの躍動する動きと熱気に観客は圧倒されていました。

続いて日野町内で行われた「将門」の公演後には、舞台上で「宮原八幡宮太々神楽」が披露され、陽気な舞いが観客の笑いを誘いました。

この公演が終ると若衆は、いよいよ午後10時の最終公演「笠拔」の準備にとりかかります。演目は、今年のメイン「将門」と「関の扉」です。最後の公演ということもあり、夜遅くにもかかわらず、多くの観客が見物に訪れました。

き大山が倒れて破損するアクシデントに見舞われ、次の公演からは、大山を抜いての上演となりました。

続く午後2時からの特別公演は、激しい雷雨のため、外での公演は難しいと判断し、烏章館で「吉野山狐忠信」を披露。若衆たちは、木頭の指示で館内に特設のステージを組んだりと対応に追われました。

そして午後5時、この頃には、雨も止み、御仮殿のみこしを八雲神社に戻す「還御」の始まりです。みこしは、来年の当番町となる「元田町」の若衆に担がれ、夜中まで町を練り歩きます。同時に旧烏山町内の子どもみこしなどが練り出し、沿道からの声援にこたえながら元気良くみこしを担ぎました。

山あげ祭 トピックス

「山あげ祭」開催にあたり、祭に関連する様々な催しが行われました。その出来事をご紹介します。



代表者が次々と除幕をする。

山あげ祭PRパネルを リニューアル

烏山土木事務所(中田昌則所長と建設業協会烏山支部(中山巖支部長)では、7月17日(木)、中央1丁目の中央差点前広場で山あげ祭PRパネルの除幕式を開きました。

このパネルは、平成15年の街路事業完了時に県が作成したもの。設置から10年以上が経ち、色あせしていたことから、山あげ祭応援クリーン作戦の一環としてパネルをリニューアルしました。

以前は、6つの当番町の屋台の絵でしたが、今回は全8枚、各町の屋台や山あげの全景などが展示されました。

式では、中田所長が「今後も山あげ祭を応援していきたい」とあいさつ。大谷範雄市長をはじめ、市議会の佐藤昇市議長、烏山山あげ保存会の島崎利雄会長のほか、6町の自治会長などが参加し、パネルの除幕をしました。

**「おもてなし」の心で
道路を美化活動**

山あげ祭で観光に訪れる人が快適に過ごせるように「おもてなしの心で迎えよう」と7月22日(火)、烏山市街地で「山あげ祭応援クリーン作戦」が行われました。



道路の美化のためにごみを収集する職員たち。

今年で2回目となる同クリーン作戦は、建設業協会烏山支部、烏山



上から、元田町若衆による「還御」/最終公演の「関の戸」/西川さんによる「老松」/笠拔



公演を終えた舞台では、国井豊副市長の「千秋楽の御口上」に続き、踊りを指導する西川扇士浪さんが「老松」を披露。筆頭世話人の黒須正明さんは、「ここまで頑張れたのも自治会や中老、地域住民などたくさんのおかけ。失敗もあったけど、その経験を次にまわってくる6年後の当番で生かしたい」とあいさつしました。

そして、午前0時50分、元田町若衆による還御のみこしが八雲神社に戻ると、熱く燃えた3日間の山あげ祭にも幕が引かれました。

土木事務所及び那須烏山市が連携し、道路の美化活動を実施。職員など約100人余が参加し、山あげ会館前で出発式を行い、祭で屋台が練り歩く主要な道路の空き缶・ゴミ拾いや歩道の除草などを2時間かけて行い、1トントラック1台分のごみを収集しました。

嵐山睦会 万灯みこし練り歩く

旧烏山町の名物でもある嵐山睦会(天金康夫会長の万灯みこしが、25日(金)の夜、八雲神社通りにある同会所から山あげ会館まで練り出しました。

100個あまりの提灯が飾られ、重さ1トンを超すみこしは近隣では珍しく、当日も県内外から多くの担ぎ手が集結。1時間半にわ



万灯みこしが練り出す。

たって練り歩き、山あげ祭を盛り上げました。

日野町商店街オアシス 大好評



くつろぐ観光客。

日野町商店会(服部均会長)では、祭期間中、観光客の休息の場として、同町内で「日野町商店街オアシス」を初めて開きました。

会場内では、今回の祭の様子を撮影した映像の上映や「焼き鳥」、「コロッケ」などが販売され、ゆっくりにくつろげると大人気。また、会場外では、射的ゲームやヨーヨー釣りなど子どもたちも楽しめる催しも盛りだくさんでした。

服部会長は、「今回初めての試みで不安でしたが、多くの人に足を運んでもらえて嬉しい。何事もやってみることは大切ですね」と笑顔で話していました。

なお、栃木県建築士会烏山支部事務局(齋藤弘江支部長)では、空き家の利活用を促進する「house bookプロジェクト」の一環で祭期間中に市内の空き家5件を活用したカフェを開きました。なかには、本市発祥のデザインプルアールトでストラップの作成体験や過去の山あげ祭の写真が展示された店舗もありました。

第9回農「ン」 「浴衣でない」と

市内の若手農業者団体「カッシーナール」主催による農コン「浴衣でない」とが、7月26日(土)、烏山公民館で開かれました。

この事業は、JA那須南青年部や市結婚相談所などと共催。農コンは、毎回人気で今回も市内外から



うちわ作りを体験。

定員を上回る32人の男女が参加しました。

当日、烏山公民館に集まった参加者は、烏山和紙会館の協力のもと制作したハーブを練り込んだ和紙を使用し、うちわ作りを体験。和やかな雰囲気の中、隣同士に座った男女で協力して作業を進めました。昼食を終えた後は、着付け体験で浴衣に着替え、市内で行われている山あげ祭に練り出し、楽しいひと時を過ごしました。

烏山燦陶会が作品展 日本文化を継承



作品展で目を楽しませる来場者たち。

8人の陶芸家の作品を展示。また、お茶席も設け、300枚あった前売り券も早々に完売するほどの人気でした。

瀧田代表は、「作品展示やお茶席をきっかけに、多くの人に日本の文化を継承していきたい」と話していました。

駐車場から会場へ！ 無料シャトルバス運行

7月26日(土)・27日(日)の2日間、烏山運動公園と県合同庁舎から山あげ会館や日野町会所まで送迎する無料シャトルバスが運行しました。

これは、遠い駐車場からでもスムーズに祭会場へと移動してもらおうと、今年から導入したもので多くの観光客が利用しました。



大勢の観光客が利用した無料シャトルバス。

デマンド交通

鳥山地区で10月試験運行

市は、「公共交通再編整備計画」に基づき、デマンド交通(乗合公共交通)の導入に向けた試験(実証実験)運行を平成24年10月1日から南那須地区で行っています。このほど、鳥山地区でも今年10月1日より試験運行を開始することになりましたので、運用区域や運行時間、料金などを紹介します。なお、利用するためには、事前の登録が必要となります。

鳥山地区でも試験運行

市民の日々の暮らしを支え、将来的に持続可能な公共交通を構築するために、市は、平成23年3月に「公共交通再編整備計画」を策定しました。

この計画の中で、交通空白地域を解消するために、デマンド交通を導入することとしています。その本稼働に向けた試験運行を、鳥山地区でも10月から国の「地域公共交通確保維持改善事業補助金」を受け実施します。

鳥山地区内で「乗り継ぎ」が必要

鳥山A地区から鳥山B地区(上記の図参照)までの利用の場合は、必ず共通地区を経由した乗り継ぎが必要となります。300円の料金で鳥山A地区から共通地区まで行き、さらに、300円の料金で共通地区から鳥山B地区まで行きますので、その場合、合計で600円

の料金がかかります。予約する場合も最初に共通地区までの便の予約と次に乗り継ぎする便の予約と、合計で2回予約する必要があります。予約の際は、予約センターで確認してください。

また、南那須地区からの利用者も鳥山指定施設より、鳥山地区への乗り継ぎ利用が可能です。なお、乗り継ぎの際は、新たな料金の発生と次便以降の予約申込が必要となります。

利用前に事前登録を!

デマンド交通を利用するためには、事前に利用登録の申し込みが必要です。希望者は、必ずサービスセンターに申込書を直接または、郵送やFAXで提出してください。申込書は、同センター受付窓口のほか、市ホームページで入手できます。(鳥山地区は、8月に行政区长等文書配布を通して配布済)

市は、この試験運行結果をもとにデマンド交通の本稼働に向けた検討を行



■デマンド交通料金表

	料金(円)
大人	300
障がい者	150
小人(小学生)	150
未就学児(小学生未満)	無料



い かんべ祭

8/23(土)・24(日)
第37回

第37回「いかんべ祭」が、8月23(土)・24(日)の2日間、保健福祉センター駐車場で開かれます。祭を支える実行委員や多くのボランティアにより直前まで準備が続けられます。

なお、実行委員会では、祭の準備や当日の運営に協力してくれるボランティアを随時募集しています。一緒にいかんべ祭を盛り上げたい参加者をご連絡ください。(いかんべ祭実行委員会事務局〈商工観光課〉TEL0287-83-1115)



祭の日程や出演団体等は以下の通りです。

■23日 前夜祭 午後5時～10時 ステージ

■24日 本祭 午後2時～9時30分

パレード/ステージ/花火大会(午後9時～)

※荒天により祭中止の場合、花火大会のみ、25日(月)、午後8時から実施。

●ステージ出演団体(順不同、敬称略)

23日午後5時:ALLEST/BEAT CRASHジュニア/BEAT CRASH上級/BEAT CRASH大金Jazz/Cherry Diamond/cowbell/HAP'S&A.HB/LovelyCandy/LOW-KEYS MIYAKO/MK/インドネシア民俗舞踊(矢崎部品研修生)/オカリナ・サークルあんだんて/神長乙女会/君島怜奈/くれよんダンスサークル/紗喜千代会/すみれクラブ/千珠流千珠会/高根沢フラメンコサークル/千草会/チャリンコ戦隊姫レンジャー/ナー・レイ・ホオヘノ/那須烏山市歌謡協会/ハーラウ・オラバクイカライ・オ・ホクアウラニ/坂東会/フラレア/南那須踊り会/柳扇会/LOOP CHILD(しばのまり子)/せきぐちゆき

24日午後3時～、5時～:列車戦隊トッキュウジャーショー

午後3時30分～5時:荒川小合唱/荒川小吹奏楽クラブ/江川小吹奏楽/烏山小プラスバンド部/荒川中・下江川中合同吹奏楽部/烏山中吹奏楽部

午後5時30分～:BEAT CRASHジュニア/BEAT CRASH上級/BEAT CRASH宇都宮/Di-va Latina/Jelly Beans/Rough Diamond/Rough Diamond Kids/WIDE/アイレ・ベラーノ/宇都宮アート&スポーツ専門学校/絆翔～HY～/キングレコード烏山太郎プロモーション企画/ザ・マーケッツ/紗喜千代会/千珠流千珠会/千草会/チャリンコ戦隊姫レンジャー/ナー・レイ・ホオヘノ/坂東会/飛晴/フラレア/嵐山陸/柳扇会/上原チョー/藤井ゆみこ/舞ダンスファクトリー/琉球国祭り太鼓

●いかんべパレード参加団体(順不同):いかんべ七福神/荒川・下江川中合同吹奏楽部/烏山中吹奏楽部/田野倉子ども育成会/大金子子供育成会/大和流鷺子囃子保存会/二原育成会/大和久福祉会/南大和久子供育成会/ビートクラッシュ/フリーラインスケート北関東/チャリンコ戦隊姫レンジャー/琉球国祭り太鼓/クリーンボーイ&ガール/女性消防団メディカル

(※各出演団体は予定です。)

■デマンド交通試験運行の概要(烏山地区)

実証実験期間	平成26年10月1日～平成29年3月31日
運行区域	烏山地区全域をA地区・B地区・共通地区に分けて運行。烏山地区から南那須地区へは、市役所南那須庁舎・保健福祉センター・南那須図書館へ運行。
運行日時	月～金曜日(祝日、年末年始は休休) 午前8時～午後5時
対象者	登録者(市民以外でも利用可)
乗車予約	乗車希望の2週間前から当日の1時間前まで(1便・2便の予約は前日まで)に電話で予約 受付:月～金曜日の午前8時～午後5時(祝日、年末年始除く)
予約センター	きずなサービスセンター 〒321-0628 那須烏山市金井2-2-11 TEL 0287-82-8252 FAX 0287-82-8262

■乗降方法について

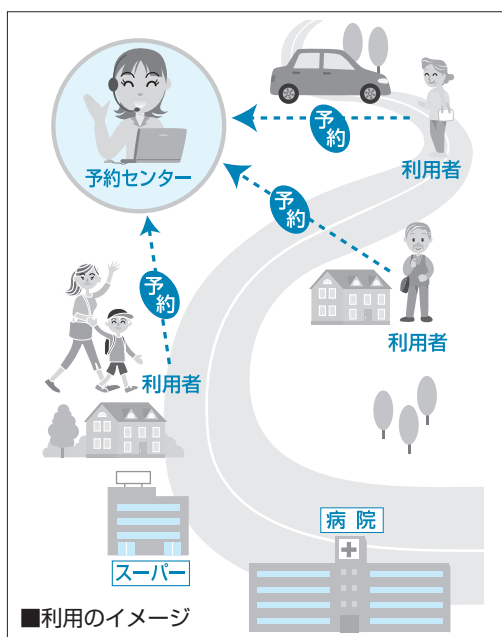
※乗り継ぎは、2回目の料金が必要・次便以降の乗降が必要

乗降地区	1回の乗降	乗継の乗降
烏山A地区内	●	—
烏山B地区内	●	—
烏山共通地区内	●	—
烏山AまたはB地区⇔共通地区	●	—
烏山A地区⇔B地区	×	●
烏山AまたはB地区⇔南那須地区指定施設	●	—
烏山AまたはB地区⇔南那須地区指定施設外	×	●

■デマンド交通運行時間

※「出発時刻」は運行業者が、車庫を出る時刻

運行便	出発時刻	到着時刻	最大所要時間
1便目	8:00	～ 9:00	60分
2便目	9:00	～ 10:00	60分
3便目	10:00	～ 11:00	60分
4便目	11:00	～ 12:00	60分
5便目	12:00	～ 13:00	60分
6便目	13:00	～ 14:00	60分
7便目	14:00	～ 15:00	60分
8便目	15:00	～ 16:00	60分
9便目	16:00	～ 17:00	60分



います。今回の試験運行を多くの人がご利用いただき、新たに導入する交通システムがより良い市民の足となるよ

う、皆さんからの貴重なご意見をお待ちしています。(総合政策課秘書政策室 TEL 0287-83-1112)